需要獲得
サービス

黒千石事業協同組合

北海道雨竜郡北竜町

単独の生産者では生産量が少なく希少な黒千石大豆を協同組合が一定量を集荷、安定的に販売している

同組合は北海道内の農業生産者7人で2007年に設立され、現在組合員は52人で、組合員の生産した幻の黒大豆「黒千石」を共同加工・共同販売することを目的としている。組合所有の共同施設では、黒千石大豆のほか、組合員全員が生産している米についても取り扱っており、共同加工した商品を販売するまでの期間、品質を維持する共同保管事業も行っている。また、加工した商品については大口取引先へ共同販売を行っており、組合事業を通じて取引条件の向上を図るとともに、さらなる販路の拡大を目指している。

所在地	北海道雨竜郡北竜町字磐水31番地1	設立	2007年
電話／FAX	0164-34-2377／0164-34-2388	資本金	643万円
URL	https://kurosengoku.or.jp/	従業員数	5人
代表者	代表理事　髙田 幸男		

蘇った「幻の黒千石」を共同販売して安定・安心を提供

同組合が取り扱う黒千石大豆は直径5ミリメートル程の黒大豆の品種である。食用のみならず、軍馬の飼料としても活用されるなど、栄養価の高い品種であるが、栽培方法が難しく1970年代に北海道内から姿を消し、「幻の黒大豆」と呼ばれた。2005年に北海道雨竜郡北竜町の農家を中心に栽培を再開し、現在、全道で52戸の農家が作付けを行っている。同組合では黒千石大豆を北海道の大手菓子メーカーなどに原料として納入している他、きな粉やどんに自社加工し小売販売も行っている。

黒千石事業協同組合

強力なリーダーシップの発揮

設立から13年を経過し、共同販売事業の売上高は1億円を越え、販売先は北海道内から全国へ、そして海外へと拡大している。これはひとえに、設立時からの代表理事である髙田幸男氏の貢献によるところが非常に大きい。通常の会社組織とは違い、各々が独立した事業者である組合員を取りまとめることは非常に難しい舵取りであるが、代表理事の強力なリーダーシップにより健全な運営がなされている同組合では、組合員が納入した大豆を洗浄・乾燥・異物探知・包装まで一貫して行い、品質保証も担っている。

蘇った「幻の黒千石大豆」

地域資源を活用した新商品の開発と黒千石大豆を世界に向けて販路拡大

近年の健康志向の高まりとコロナによる巣ごもり消費をターゲットとした新商品「幻の黒千石大豆ミート」の開発・販売に着手した。また、納豆メーカー（株）豆蔵と共同開発した発芽黒千石納豆「なんとみごとな発芽黒千石なっとう」は、ふるさと納税において北竜町のお礼品の一つとなって、地域ブランドの確立に大きく貢献している。3年程前から海外進出にも取り組み、台湾のスーパーマーケットなどに北竜町とともに出展、黒千石大豆を使った加工品（お茶やきな粉）を販売、健康志向の高い高所得者層などから好評を得ている。

納豆メーカーとの共同開発商品